

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600186		
法人名	住拓工業株式会社		
事業所名	グループホーム福寿草		
所在地	苫小牧市本幸町1丁目3番5号		
自己評価作成日	平成23年7月20日	評価結果市町村受理日	平成23年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・看取り介護サービスの提供が可能です。</li> <li>・かかりつけ医への受診に際してホーム職員にて対応致します。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600186&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600186&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年8月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは、福祉センターや商店、公園など、周辺環境に恵まれた場所に位置し、広い敷地には畑や駐車スペースを十分確保するなど、利便性にも配慮し建設されています。昨年9月の開設以来、運営者は真摯な姿勢で運営に取り組み、3つの町内会関係者の方々から運営推進会議で協力が得られたり、家族から応援する声が多く寄せられています。施設長は運営方針を示した上で、職員自ずからが、新しいものを創り上げて行く過程を大切にしており、介護職が初めての職員も仕事に対する意欲や喜びを感じている様子が窺えます。サービスの実施状況を現場職員が厳しく自己評価した中で、より良いものへと一つづつ積み上げて行こうとする姿は、ホームの進化や発展を築きあげる礎ともなり、大きく期待するところであります。職員の優しい接遇や利用者へ寄り添いながら、思いや意向の把握に努めている点、また、様々な外出行事があるなど、一年の短い期間の中で熱心に取り組まれています。今後は理念に基づき、地域との相互の協力体制を推進して行きたいと考えています。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の存在は認識しており理解、周知されている実践には生かしきれていない。	基本理念の一つに「地域の皆さまとの相互の協力体制を推進します」を標榜し、ホームが目指す地域密着型サービスを表明しています。理念についての職員への説明を十分に行いながら、今後、より重点的に深く掘り下げ、意識づけに取り組む方針です。	理念に基づく目標を掲げているユニットもあり、職員自ら動き始め、実践に向かっています。例えば、理念が具現化しやすいようなケア理念の作成なども検討され、職員全員の一つの拠り所となり、ホーム全体のものとなるよう、理念の実践に期待します。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時々地域の商店やクリーニング店を利用するが日常的ではない。	職員と利用者が、一緒に地域の商店へ食材の買い出しに出かけるなど、日常の暮らしの中で、当たり前のこととして続けられるようにしています。地域の祭りに出かけたり、町内の方々が集うカラオケ会に参加するなど、地域との交流を大切にしています。	今後は地域住民の一員として、町内会への加入を予定しています。一人でも多くの住民の方々に、認知症を理解し、認知症の方々を見守って頂けるよう、地域への出前講座などにも取り組みたい考えを示していますので、実現に期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行えていない。行える機会も持っていない。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見が必ずしもサービス向上につながっていない。	昨年の11月から、2ヵ月に一度開催しています。町内会に未加入ですが、3つの町内会の会長が、メンバーとして協力を得ており、玄関の施錠や災害対策などで、忌憚のない意見交換が行われています。貴重な意見を現場で速やかに活かそうと、職員の参加について検討しています。	多くの家族に参加を頂き、様々な意見を出して頂けるよう、意図的にテーマを設定したり、会議案内や議事録を家族に送付するなどを検討し、今後も会議がより良く推進されるよう期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が行っている。	運営上の案件については、市の担当者に相談して意見を仰いでいます。グループホーム連絡会では、市の担当者が「市内におけるグループホームの現状と課題について」話されたり、苫小牧市長生大会の研修場所として、ホームを活用して頂くなど、地域福祉の推進を共に取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず玄関の施錠は行っている。勉強会で身体拘束の廃止に向けた学習は行っているが、意識が高まっていない事、職員の基本的なスキルが不十分と言った事等があり未だに継続を余儀なくしている。	利用者が不意に外出し、地域住民の方々に協力頂いたケースがあります。利用者が抱える根本的な不安を取り除くケアの在り方について、アセスメントを行い、糸口を発見して、成功した事例もあります。利用者との信頼関係を築きながら、抑圧感のない暮らしとなるようにしています。	身体拘束をしないケアの実践に取り組むことの重要性や拘束の弊害について、職員一人ひとりの認識がより高まるよう、学習環境を整えたい意向です。日常の職員自身の言動について、事例を出し合って検証するなど、振り返りを通じた学びの機会を期待します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で学習する機会を設けてはいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で学習する機会を設けてはいるが、内容的に理解が難しい所があり十分な理解には至っていないと感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結については管理者が行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会は設けられていないが業務中に受けた意見や要望は職員間で共有は出来ている。	「職員の対応や振る舞いで気になる点がございましたら…」の文章をホーム便りに載せるなど、家族の意見を積極的に聴く姿勢が窺われます。居室の環境整備等、家族から率直な意見を頂いた際は、内容を記してホーム全体のものとなるよう共有化しています。利用者から出された要望等は、個人記録や連絡帳に載せたり、申し送り時に確認し、実際のケアに反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と現場リーダーとの話し合いは日常化しており、実務的な点についての意見調整は出来ている。	施設長は、其々のユニットに運営に関する方向性を示した上で、各職員の有する力をチームとして、發揮してもらうことに重点を置いた、ボトムアップの体制をとっています。職員は、施設長に意見を言い易いと感じており、業務上の問題点や具体的な支援について、相談し、実際の実務やケアに反映させています。	定期的な個人面談の機会を確保し、様々な意見聴取をしていく考えです。職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握したり、育成計画の道筋を具体的に示しながら、働きながらの学びを推進し、運営への更なる反映となるよう期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して職員の状況を報告しているが望む環境にはなっていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受ける機会はあるが全員が十分に受ける事が出来る状況ではない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会はあるが一部の交流のみで十分でない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談、情報収集を行い職員が適切な介護提供が出来る、一早く安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の意向を聞く機会は設けている。入居後も面会時等にご家族からの要望も聞くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と情報交換しご本人の状態の把握、要望を聞く事で必要としている支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え合う関係になろうと努めているがまだ十分ではない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所へまかせっきりという状態にならぬ様、随時ホームでの状況はお伝えし、ご協力を頂ける部分についてはお願いしている。また実際ご協力も頂けているケースは多い。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全てに渡り支援する事は難しいが、可能な範囲においてご家族のご協力も頂きながら実施している。	近隣の知人の方が面会に来たり、町内の馴染みの方の訪問があるなど、今後もできるだけ関係が継続できるよう、サポートしていく方針です。以前の住まいを懐かしんだり、気になっている様子がある場合は、色々な外出の機会を利用して、自宅を見に行ったり、周辺をドライブするなど、利用者の想いを尊重した支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な症状の方が混在して生活を送られる中で、なかなか入居者様同士馴染めない方も多く、職員の関わりとしては接触する上でトラブルに発展しないよう配慮する事が精いっぱい状況の事も多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	意識して行っていないがお会いする機会があった時にはお話をうかがっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族から話を伺い把握に努めている。	意思表示が明確でない場合は、支援の都度、利用者の想いを確認している様子が窺えます。食事摂取の様子から好き嫌いを尋ねたり、帰宅願望の背景にある事柄を汲み取り、支援に結び付け、安心して頂くなど、利用者の希望や不安を勘案した対応について、職員間で話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や入居後の会話で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握の努力はしているが全員を均等には出来ていない。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一部では行っているが、スタッフ全員とは言えない。	介護計画を作成する際に、利用者・家族から、介護に対する意向を聞き取るように努めています。利用者に関する日常生活の記録が詳細に行われ、アセスメントで気づいた点は、職員が個々にセンター方式のシートに記入し、カンファレンスで討議したり、計画が実情と合っているか、否か、また、実施状況について、確認する機会を設けています。	職員全員参加での介護計画作成に関して、充足を必要とするユニットもあり、ホーム全体としての統一したケアマネジメントの構築に期待します。利用者に関わる情報収集とその分析、及び課題設定のプロセスを明確化して、対応手順を定め、職員全員に周知された中で、介護計画作成を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ個別の考え方が中心になってしまいケアプランに沿ったケアになっていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々各入居者様のニーズ(認知症から来る不安感)が多様でありそれらの解消に日々大半を費やす事が多い。現状では項目のようなサービスの提供は難しい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	項目の事柄については出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実施できている。	協力医療機関以外に、利用開始前のかかりつけ医への受診も可能で、通院はホーム対応を基本とし、場合によっては、家族に依頼する場合があります。職員が体調等について気になる事を纏め、訪問看護師や医師へ伝達できるようにしており、内科・歯科の往診体制も整えています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を締結しており、定期的に健康相談を受けて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行っている。退院時ご家族と共に病院へ行きお話を伺っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要な入居者様に対しては具体的な話し合いを行っている	医療連携体制加算算定にかかる指針の中に、重度化し、看取りの必要が生じた場合などの対応について、明示し、契約時に同意を得ています。看取りの支援に移行する際は、関係者間で協議内容を文章化し、双方の合意をもって実施するものとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは職員の目につく所に掲示しているが定期的な訓練は行っていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが、全職員に周知されていない	火災・夜間想定避難訓練を、消防署の協力と運営推進会議のメンバー（地域住民等）の参加を得て実施しています。利用者の安全確保と避難誘導をスムーズに行えるよう、今後は、毎月、訓練を実施する計画があり、同時に連絡網の整備を検討しています。	火災以外の想定される災害についてのマニュアルやシュミレーション、災害時の協力者の役割、災害に備えた備蓄品の確保について期待します。また、ホームの災害対策について、職員全員に周知徹底するよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけているが全職員に周知されていない	人格の尊重について、内部研修などの全体場で詳しく勉強する機会は、これからの予定ですが、日々の支援の場面では、施設長やリーダーが中心となって、助言や啓発を行っています。職員の言葉掛けや接遇は優しく、利用者に寄り添う姿勢が窺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心がけているが不十分である		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全職員に徹底されていない。お互い声を掛け合っているが不十分		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	努めているが不十分		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が準備や片付けをするように心がけているが十分ではない	できるだけ利用者と職員が一緒に買い物に出かけ、食べたい物を聞いたり、畑で収穫した旬の野菜を取り入れるなどして、献立を作成しています。畑作業から始まり、調理（大根おろし、おにぎりなど）にも力を発揮して頂いています。誕生日には、メニューに好物を提供したり、外食を楽しむ機会を作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の記録をつけ必要量の摂取が促されるよう努めている。栄養やバランスも考えながら提供しているが十分でない事もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声掛けや見守りにて実施しているが全員への対応は不十分である		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを確認しながら声掛けや誘導を行っているが全員把握できていない時もある	トイレの声かけや誘導は、一人ひとりに応じた言葉掛けや、職員と利用者がサインを交換し合うなど、羞恥心などに配慮しています。排泄チェックの記録を一日単位で統計化し、リズム変化をキャッチして、排泄のアセスメントに繋がったケースもあります。今後は、ホーム全体でこの様式を用いて取り組む方針です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト等の食材で工夫している。困難な場合は医師へ相談し下剤処方等の対応を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望（特に時間帯）には対応できていない。週2階の入浴機会は確保するよう努めている。望まないときには無理強いしない	利用開始前に入浴の習慣を、どうしても継続したいという希望を受け、職員のシフトを調整し、夕食後に入浴支援しているケースがあります。基本は、午前または午後の時間を設定し、湯加減や入浴順などで、利用者の希望を叶えるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して入眠して頂けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情をファイルに収めいつでも把握できるようにしているが全てとは言えない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員に支援できていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方々との協力はまだできていない。本人の希望で散歩や買い物等全員ではないが出かける機会の確保に努めている	市内の緑ヶ丘公園での散歩を始め、フェリーターミナルの見学や千歳での体験農業、恵庭の牧場で、動物とふれ合うなど、目的を持ちながら様々な場所へ出かけています。また、外出中にティータイムや外食も盛り込み、出かけることが、楽しみになるよう計画しています。冬場の外出は、買い物や通院が中心となっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理できる方には行って頂いているが、細部までの管理は出来ない（ご家族様にも了解の上預けて頂いている）。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様がかけたい時に自由に利用して頂いている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂では見晴らしがよく、景色を見ながら過ごされている	リビングとダイニングルームを兼ねたホールは、明るく、対面式のキッチンと繋がる造りで、内部に洗面台をさりげなく設置しています。一方の窓側には、カウンターを施し、椅子を配置して、利用者のスタイルに応じられるようにしています。観葉植物が置かれていたり、時計や暦があるすっきりとした造りですが、今後関係者の意見を活かしながら、もう一つの家となるよう、環境整備をしていくと推察します。洗面台、トイレは車椅子対応型で、エレベーターや玄関にスロープを設置しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に置いてある椅子やベンチに座りゆったりと過ごされているが更に配慮が必要だと感じる			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族へ馴染みのあるもの持参をお願いしているが、必ずしもそうとは限らない	利用者・家族が望むように、入居時に家具をセッティングしています。新しい家具などの場合は、収納場所や収納品が分かるようにラベルを貼り、混乱を防ぐよう配慮しています。また、ベットにこだわらず、布団を使用するなど、利用者に合わせて、居心地良く過ごせるようにしています。各居室に温湿度計を設置しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ等に目印をつけている。全館バリアフリーにて手摺や斜路なども設置し、自立を促す環境としている			